

平成31年度学校自己評価システムシート(県立けやき特別支援学校伊奈分校)

目指す学校像	安定した人間関係を形成し、「自らの病状や実態を理解し、自らの健康管理ができる力」と「基礎学力」を身につけさせ、子どもたちの夢や希望の実現に向けて全力で取り組む、保護者・病院から信頼される学校
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 病弱教育としての「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりを行う。 2 自立活動の実践をベースに子ども一人一人をしっかりと見つめ、スムーズな復学を目指す。 3 子ども主体の各種活動をととし、豊かな心・創造性を育む。 4 病弱教育のセンター的機能の拡充と病弱教育の周知を図る。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	平成30年度は研究の初年度として、ユニバーサルデザイングループとICTグループに分かれての研究を進めることができた。また、公開授業週間を設定し授業づくりについて学び合うことができた。平成31年度は時代とともに変化していく情報通信技術等に対応しつつ、児童生徒の興味・関心を高め、基礎学力を着実に向上させる取り組みが必要である。	病弱教育における授業のユニバーサルデザイン化やICT機器等の活用について研究し、「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりを進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・「病弱教育における主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくりに関する実践研究」を昨年度に引き続きテーマとし、ICTの活用とユニバーサルデザインの視点から、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりを行い、グループごとの研修や授業研究、公開授業週間を通して、分校全体で発信し合い、共有する。(相談・研究部) ・各種情報機器の管理を工夫し、児童生徒や教員が学習活動等で使いやすい環境を整える。(教務・情報部) ・情報機器の活用方法について、研修会等を積極的に進め、有効な活用ができるような基盤を整える。(教務・情報部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用とユニバーサルデザインのグループごとの研修や講師招聘研修会等を年間10回行うとともに、2学期に公開授業週間を設け、学び合いを行い、授業づくりに生かされたか。(相談・研究部) ・各学部の先生方の意見を取り入れながら、ICT機器の適切な管理ができていたか。(教務・情報部) ・各種ICT機器活用については、相談・研究部と協力しながら、研修を進めることができていたか。(教務・情報部) 			
2	昨年度は「自分メーター活用ブック」を用いた定期的な個別面談等により児童生徒の自己理解や気持ちの言語化を促し取り組みを進めることができた。また、集団における自立活動を計画的・持続的に進め、集団参加や社会性の伸長につなげることができた。今年度はそれらの取り組みをさらに体系的に行い、伊奈分校の自立活動及び復学支援をさらにレベルアップさせていくことが望まれている。	「自分メーター」の活用をさらに進めるとともに、集団における自立活動の授業を充実させ、復学支援に生かしていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・尺度表「自分メーター」及び「活用ブック」の活用を体系的に行えるよう活用方法の研修を行い、共通理解と内容の充実を図り、復学支援につなげる。児童生徒の転入時は、スタートキットを用意し、有効に活用できるようにする。また、大学と協力して、アプリとしても使用できるようにし、児童生徒にとって、取り組みやすいものとする。(相談・研究部) ・集団における自立活動は、各学部で、週1回を目標に計画的に実施し、様々な教員が様々な角度からアプローチできるようにする。(相談・研究部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・尺度表「自分メーター」及び「活用ブック」を体系的に活用できたか。(相談・研究部) ・集団における自立活動を充実させることができたか。(相談・研究部) 			
3	平成30年度は集会行事における委員会活動の充実に取り組み、児童生徒の達成感や充実感を高めることができた。一方、学校行事等に参加することが難しい児童生徒もいるため、より多くの児童生徒が主体的に学校行事等に参加する方策を検討する必要がある。また、不登校等により体験が不足している児童生徒が多いため、多様な体験活動を充実させる必要がある。	魅力あふれる学校行事や委員会活動等により、児童生徒が豊かな体験を積み、自尊感情を高め、自己効力感を持つことができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・刺激の少ない場所を教室内に設けることで、落ち着いた学習に取り組める経験をし、各行事や学校生活の中で、一人一人の個性や適性に合った役割や学習内容を設定する。(小学部) ・学校行事等に参加することや、人前に行くことが難しい生徒も行事を作り上げていく達成感、充実感を感じられるようにするために、学校行事の会場に飾る壁面制作などを行う。(中学部) ・今年度新たな取り組みとして、職業に関する講話を実施し、身近で働いている人の話を聞くことによって、自らの進路や将来について考える機会を持つようにする。(指導・保健部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室を整備し、学習環境を整えることができたか。(小学部) ・週に1回面談を実施し、教員との振り返りを通して、自己理解を進めることができたか。(小学部) ・生徒が主体的に携わることができる活動を用意し、生徒がその活動に取り組むことで、自尊感情を高め、自己効力感を持つことができたか。(中学部) ・職業に関する講話を聞いて、生徒自身が進路や将来のことを考えることができたか。(指導・保健部) 			
4	昨年度は小・中・高等学校等から学校コンサルテーションや研修会の要請が増加し、精神疾患や心身症等の児童生徒支援のニーズがさらに高まっていると言える。一方、校内の教員からも複雑なケースの対応の困難さが挙げられている。校外、校内のバランスをとりながら両立を図る工夫が求められている。	公開講座、学校コンサルテーション等をおし、精神疾患・心身症等の児童生徒理解を進めるとともに、より良い支援のあり方を発信する。	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、全市町村へのパンフレットの配布等をおして、伊奈分校の取組を広く発信し、特性を生かしたセンター的機能果たせるようにする。相談ニーズに応じて、計画的に支援を行い、校内支援とのバランスを図る。転出児童生徒については、追調査を行い、集約し、今後の指導に生かす。(相談・研究部) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援を計画的に進められたか。(相談・研究部) ・追調査を集約し、指導に生かされたか。(相談・研究部) 			

学校関係者評価	実施日 平成 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	